
赤潮注意報解除(ヘテロシグマ アカシオ)

鹿児島県水産技術開発センター
 令和4年4月20日

鹿児島湾 赤潮情報 NO.3 (赤潮注意報続報)

鹿児島湾では、ヘテロシグマ アカシオの細胞密度が減少していることから、3月18日付けの赤潮注意報(ヘテロシグマ アカシオ)は解除します。

[1] 4月19日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

通常検鏡でヘテロシグマ アカシオが最高 5細胞/mL確認されました(重富沖)。
 濃縮検鏡でシャットネラ属は確認されませんでした。
 珪藻類は全域で少ない~やや少ない状況でした。

(2) 海況

平年値と比べ、表層水温は平年並みで湾奥部で18.2~19.3℃、湾中部で18.8~19.3℃。
 塩分は平年並みで32.6~34.3、透明度は平年並みで6.0~10.5mとなっています。
 水温：平均 18.8℃ 湾奥部 18.7℃ 湾中部 19.1℃
 塩分：平均 33.4 湾奥部 33.1 湾中部 34.1
 透明度：平均 7.6m 湾奥部 6.8m 湾中部 10.0m
 (平年値は平成元年~令和3年の4月下旬の平均値)

【鹿児島県水産技術開発センター調査】 **赤潮注意報解除**

鹿児島湾赤潮調査結果概要
 調査日：2022.4.19(火) 中潮
 天候：晴れ
 調査時間：8:00 ~ 11:47

・ヘテロシグマ アカシオによる着色域は確認されず。
 ・ヘテロシグマ アカシオを最高 5細胞/mL確認 (Stn. ⑥, 10m層)
 ・濃縮検鏡でシャットネラ属は確認されず。
 ・珪藻類は全域で少ない~やや少ない。

() 内は0, 10 m層のヘテロシグマ アカシオの細胞密度 (細胞/mL)

※は表層海水を濃縮検鏡(1000倍)した調査定点

平均表層水温：平均 18.8℃ (平年比+0.5℃, 平年並み) (湾奥18.7℃ 湾中19.1℃)
 平均表層塩分：平均 33.4 (平年比+0.5, 平年並み) (湾奥33.1 湾中34.1)
 平均透明度：平均 7.6m (平年比+0.4m, 平年並み) (湾奥 6.8m 湾中10.0m)
 ●平年値は平成元年~令和3年の4月下旬の平均値

鹿児島県水産技術開発センター

[2] 今後の赤潮発生の予想

鹿児島湾奥部の平均表層水温及び平均表層塩分は本種にとって増殖に適した範囲にあるものの、ヘテロシグマ アカシオの細胞密度が減少していることから、赤潮は終息状態にあると考えられます。

各漁協・養殖業者におかれましては、水温等好適な増殖環境であり、競合種の珪藻類が少ない状況であることから、引き続き定期的な検鏡等をお願いします。
 (次回調査は5月中旬を予定)

※ヘテロシグマ アカシオの特徴

- ・適水温 15-25℃
- ・適塩分はきわめて広い。
- ・魚毒性が強く、致死細胞密度はブリで10万細胞/mL前後、カンパチで3万細胞/mL前後。

赤潮情報(携帯用)：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮情報(パソコン用)：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/newHP/index.html>

